

# 小平市議会定例会一般質問通告書

## 質問件名 容器包装など使い捨てのプラスチックを削減するための取組を

質問要旨 国連環境計画の報告書「Single-Use Plastics」(2016)によると、日本における一人あたりのプラスチック容器包装廃棄物の量はアメリカに次いで世界で2番目に多くなっています。また、令和元年版環境白書によると、世界中で毎年約800万トンのプラスチックごみが海洋に流出しており、2050年には海の中のプラスチックごみの重量が、魚の重量を超えるという試算もあります。コロナ禍でのテイクアウトの利用の拡大により、プラスチックごみの量はさらに増えており、対策が求められます。

1.市内の容器包装プラスチックごみの収集量は、コロナ禍前の2019年度とコロナ禍後の2020年度でどのように変化しましたか。同様に、コロナ禍前と後の燃やすごみと燃やさないごみの収集量と、2019年度のごみ組成分析でのそれぞれのごみのなかに含まれていた容器包装プラスチックごみの割合をお教えてください。

2.国が2019年5月に発表したプラスチック資源循環戦略は、2030年までにワンウェイのプラスチック(容器包装等)を累積で25%削減することを目指す、としました。東京都が同年12月に策定したプラスチック削減プログラムでは、国の目標に沿って、2030年までに2017年比でワンウェイプラスチックを25%削減し、家庭やオフィスから出される廃プラの焼却量を40%削減すること、2050年までに海洋へのプラスチック流出をゼロにすることを目標に掲げました。これらの目標達成に向けて、基礎自治体としての小平市での取り組みをお教えてください。

3.目黒区は、1.ノーレジ袋のすすめ 2.バラ売りを選ぼう 3.詰め替え商品を選ぼう4.残さず食べる工夫をしよう 5.«長く»«繰り返し»使おう、の5項目の«めぐろ買い物ルール»を定め、これらのルールのいずれかに取り組む店舗を«めぐろ買い物ルール参加店»として登録し、ステッカーを貼ってもらいPRする事業を2019年10月から始め、今年11月現在で中小店舗を含む88店が認定されています。小平市でも、トレイを使用しないいばら売り、量り売りや、トレイを使用しないノントレイ包装などに取り組む店舗を«エコショップこだいら»認定店とし、資源とごみの収集カレンダーに市内の大手スーパーマーケットや生協などの認定店20店が掲載されていますが、あまり知られていません。「エコショップこだいら»を中小店舗も参加しやすい仕組みに変えて、ステッカーを貼ってもらい、どのような取り組みをしているかを市のホームページに掲載するなど、PRしてはいかがでしょうか。

4.目黒区は、今年3月に«目黒区使い捨てプラスチック削減方針»を定め、今年8月から、使用する容器包装やスプーン、フォークなどをプラスチックから木や紙など天然の素材に変更する事業主に、その購入費を最大10万円まで補助する«エコテイクアウト推進補助金»の申請を受け付け、9月末で予算を超過し、受付終了となりました。小平市内の事業者に聞いたところ、プラスチック製だと一つ20円の容器が、竹皮製だと一つ120円するそうです。プラスチックではない天然の素材の容器の利用を進めるため、その差額分を補助するような事業を始められないでしょうか。

5.目黒区は、マイバッグ、マイボトルの次は«マイ容器»を使うことを推進する«マイ容器利用キャンペーン»を今年9月から開始しました。キャンペーン参加店で、蓋つき容器や鍋などのマイ容器をテイクアウトに使うと1回の買い物につき100円割引するというもので、10月18日現在で11店舗が参加しています。また岡山県真庭市は、コロナ禍の昨年5月から、顧客が持参したマイ容器や水筒などのマイボトルでのテイクアウトができる市内飲食店を«エコテイクアウト»店に認定し、独自のタペストリーの掲示やポスターでPRするエコテイクアウト事業を行っており、参加店は、今年3月の27店舗から、10月には69店舗に増えています。これらの事業は、地元商店の消費拡大にもつながるものと思いますが、小平市でも実施できないでしょうか。

上記のとおり、小平市議会会議規則第57条第2項により通告します。

令和 3年 11月18日 小平市議会議長 殿 小平市議会議員 氏名 水口 かずえ